



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No. 142

2010 Mar. 3

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人：
関西障害者定期刊行物協会
編集人：奈良県自閉症協会
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎日発行

ぼくうみ再上映
4月25日の奈良県自閉症協会総会で映画「ぼくはうみがみたくなりました」を上映します。また、この映画を作成された山下さんを講師にお招きして講演をお願いしました。

この映画は奈良県自閉症協会が今年1月30日奈良市北部会館市民文化ホールで上映会をしました。大変好評で再上映が望まれていました。今回、奈良県自閉症協会の総会のなかで記念講演として実施しますが、映画と講演は会員以外の方にも公開するかたちで参加していただけるようにしました。(大和郡山市三の丸会館13:00~16:00 映画上映&記念講演会)ぜひこの機会をお見逃しなく。お知り合いの方にも情報提供をお願いします。以下は「ぼくはうみがみたくなりました」の内容についての横浜の様子の記事です。(河村) …事故死の自閉症児モチーフに父親が映画作成、広がる上映の輪 / 横浜…15歳で事故死した自閉症の長男をモチーフに、脚本家で特定非営利活動法人(NPO法人)理事長の父・山下久仁明さん(49)が映画「ぼくはうみがみたくなりました」(福田是久監督)を製作、じわじわと支援・上映の輪が広がっている。自閉症・発達障害の人たちの日常と周囲の人たちとの交流を描いた

この映画は、1月22日まで「ジャック&ベティ」(横浜市中区若葉町)でも上映されている。

山下さんはもともとアニメーションなどの脚本家だった。生活が一変したのは20年前に長男・大輝さんが生まれ、3歳前に自閉症児と診断されてから。現在より自閉症の情報も少ない時代、医者や友人に相談しても「大人になれば治る」という無理解な状況だった。

ぼくらの海再上映決定!

「まず障害のことを知ろう」と、脚本の仕事休止し、地元・町田市の「障害者青年学級」のスタッフに加わった。

そこで出会った青年たちは、エネルギーにあふれ、地域で楽しく生きていた。「なんだ、幸せに生きることができる可能性があるんだ」と山下さんは少し気持ちが楽になったという。

その後、大輝さんのために障害児が放課後を過ごす施設「フリースペースつくしんぼ」を町田市内に開設。運営に忙殺されながらも「自閉症を知ってもらうための映画」の夢を温め続けた。

2002年に、映画原作となる同名の本を出版。インターネットを使って、多くの人たちから映画製作費を集め始めた06年3月、大輝さ

んを鉄道事故で失った。
しかし、山下さんは夢をあきらめなかった。映画製作のために立ち上げた会社に「大輝」と名付け、活動を続けた。「息子と息子の障害があったから、今の自分や映画がある。一緒に夢を実現したかった」

製作費のうち約3500万円を協賛とカンパで調達。監督や出演者もほとんどが手弁当での出演だ。また、地元・町田市のほか、山下さん自身が思春期に自転車を走らせた境川〜江の島〜三浦を舞台に設定、それぞれの地元

で温かい協力を得たという。
山下さんは「自閉症を知らない方は、障害ある主人公と旅をするヒロインの気持ちになって見てほしい。そして、この障害のことを少しでも理解してもらえたら」と話している。
映画に関する情報は製作実行委員会サイト <http://homepage2.nifty.com/bokuumi/>
(1月15日カナロコ 神奈川新聞社)



自閉症とADHDは明確に区別。

これまでADHDの特徴と、アスペルガーの特徴とどちらも兼ね備えており、どちらとも定義しがたい発達障害を広汎性発達障害とってきました。しかし、今回のDSM-V(アメリカ精神医学会の精神障害の診断と統計の手引き2011年出版予定)ではアスペルガー症候と広汎性発達障害は明確に自閉症の範疇となりADHDは別の範疇として明確に区別されるようになったようです。

従来から自閉症とADHDの両方の診断基準を満たす場合には、より深刻な自閉症という診断を採用する決まりになっており、一人の患者に対してアスペルガー(自閉症)とADHDの両方の診断をつけるというのは医学上は間違いとされてきました。何が違うかといえば、ADHDは出力の障害です。自閉症は入力にプ

ラスしての出力の障害とされています。だからADHDの人の身に起こる困難は自閉症者にも起こりうるため、似て見え診断に混乱を与えてきました。

新しいDSM-Vに関するニュースが次のアドレスで公開されています。(英文)

http://www.autism-society.org/site/News2?news_iv_ctrl=-1&page=NewsArticle&id=15764

(河村)



P ECSワークショップ終了
2月6日・7日 2日間のPECS 2 DAYワークショップが無事終了いたしました。

奈良での初めて開催のワークショップでしたが 定員近いお申込みとご参加を頂き ありがとうございます。服巻繁先生の丁寧な繰り返し説明のもと、実際に生徒役、先生役、身体プロンプター役になって トレーニング場面をやってみて、実感もさせてもらいました。また ワorkshop用の教材を使って 様々な場面での 参加者同士での実習的なやり取りで再度認識して確かめながら、徐々にいろんなアプローチの仕方学びました。それぞれの支援をしている人に どんなふうに 伝えていくか アプローチしていくか? 今後の参加者さんの課題だと思います。コミュニケーションが上手くできない人達に

活用して頂く機会が さらに 増やせる事を願っています。

ワークショップのおさらいの意味で再度 PECSとは?を掲載致します。

PECSとは何か?

絵カード交換式コミュニケーションシステム

アンドリュー S. ボンディ, Ph. D. & ロリ・フロスト, M. S., CCC/SLPにより開発

絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)は、1985年に開発されました。自閉症やその他のコミュニケーション障害を持つ子どもから大人にコミュニケーションを自発するように教えるためのユニークな拡大/代替コミュニケーショントレーニングのパッケージです。デラウェア州自閉症プログラムで最初で使用されてから、PECSはコミュニケーションの自発の要素に焦点を当

てたものとして世界的に認知されています。PECSは、複雑で高価な教材を必要としません。教師、施設職員、家族なども作ることができ、様々な場面で簡単に使用できます。

PECSでは、要求を充足してくれる先生と欲しいアイテムの絵カードを交換することを子どもに教え始めます。トレーニング手順は、B. F. スキナーの本、言語行動に基づいています。自分でコミュニケーションするようにプロンプトや強化の手続きを使って、系統的に機能的言語オペラントを教えます。言語プロンプトは使わないので、即時に自発するようになり、プロンプト依存を避けることができます。次第に、シンボルを弁別することやシンボルを組み合わせる簡単な文を作ることを教えてゆきます。最も進んだフェーズでは、コメントや質問に回答することを教えます。PECSを早くから使っ

ている幼児の多くが、発語も発達させています。

広範囲のコミュニケーション、認知、身体上の困難を持つ青年や大人にもこのシステムは、上手く適応されています。このシステムの基盤となる PECS トレーニングマニュアル第二版は、ロリ・フロスト, MS, CCC/SLP とアンドリュー・ボンディ, PhD によって書かれました。マニュアルは、効果的に PECS を実施する上で必要な全ての情報を網羅しています。この本は、トレーニングの6つのフェイズを通じて読者を導き、例、有益なヒント、進歩を追うための記録用紙を提供しています。このトレーニングマニュアルは、コミュニケーションや行動分析学の分野の専門家によって最も革新的な指導プログラムのひとつとして認められています。

PECS は、行動分析学の知見と適切

に結びつけることによって、さらに有効に実践できます。マニュアルでは、好子のアセスメント、指導方法、プロンプトをなくす、その他の問題に関して多くの提案を載せています。著者は、ピラミッド教育アプローチを使ってコミュニケーションを促す環境を創り出すように PECS の使用者に勧めます。マニュアルでは、ピラミッド教育アプローチやそれを様々な場面で確立することに関して概略を述べています。

PECS の概略

フェイズ I とても欲しいアイテムに対して1枚の絵カードを交換することからスタートしてコミュニケーションを自発することを生徒に教えます。

フェイズ II 絵カードを自分で探しに行ったり、要求する人のところに行くなどして、コミュニケーションの相手に持続的に働きかける

ことを生徒に教えます。

フェイズ III 絵カードを弁別し欲しいアイテムと一致した絵カードを選ぶように生徒に教えます。

フェイズ IV 「_____ください」というような形式で要求するように文章を構成することを生徒に教えます。

フェイズ V 「何がほしいの？」という先生の質問に回答することを生徒に教えます。

フェイズ VI 自発的であったり、質問に答える形であったりして周囲の物事についてコメントすることを生徒に教えます。

語彙を広げる 要求の範囲内で色、形、大きさのような属性語の使用を生徒に教えます。

ピラミッド教育コンサルタントオ
ブジャパン HP [http://www.
pecs-japan.com/index.html](http://www.pecs-japan.com/index.html) より

**奈良の将来ビジョンを
つくるフォーラム」会
員へのご参画のお願い**

～奈良をどのようなまちやむらにするのか、自分たちで議論し、ビジョンをつくらう～

ものを中心とした社会から、人・心を中心とした社会への大転換。中央集権から地域主権、官僚依存から政治

主導、そして民主導への転換。広域連携や道州制の検討の進行……。日本の形が変ってきました。

今までのような、国主導の画一的方法では、活力あるまちやむらにすることができなくなりました。固有の自然、伝統と文化に根ざした、住民の主体性のある発意と実行が、その地域の活力と持続可能な発展を生

み出すこととなります。

どのような奈良にすべきであるのか、どのような奈良での生活が心地よさと誇りをもてるのかを、政治・行政に任せ切りにせず、県民・産業界・学界・行政が一緒になって議論し、ビジョンをつくるためのフォーラムをスタートさせます。

英知を結集して、もうそこまで来ている新しい日本の中の奈良を創生するための建設的な会議を始めたく、添付資料をご覧のうえ、「奈良の将来ビジョンをつくるフォーラム」の会員としてご参画いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2010年3月吉日

「奈良の将来ビジョンをつくるフォーラム」実行委員会

実行委員長：村田 武一郎（奈良県立大学）

実行委員（50 温順）：

朝廣佳子（読売奈良ライフ）／池田

- 好紀（地域創造政策研究センター）
- ／市場三喜（NPO ならチャレンジド）
- ／今西弘子（地域づくり支援機構）
- ／岩本時加子（ちかこ先生のマナー教室）
- ／上島隆弘（清水建設関西事業本部）
- ／大塚徹（地域づくり支援機構）
- ／大西康博／大濱卓（ぬるべ陶房）
- ／大槻真一（前、阪南大学学長）
- ／神剛司（地域づくり支援機構）
- ／川村創（奈良のむらづくり協議会）
- ／北森義卿（室生村森林組合）
- ／木村衛（地域づくり支援機構）
- ／久保浩三（奈良先端科学技術大学院大学）
- ／阪口博明（奈良のむらづくり協議会）
- ／笹野義一（地域づくり支援機構）
- ／鈴木英一（地域創造政策研究センター）
- ／鈴木邦明（イーサーブ）
- ／辰巳裕（奈良好き人の集い）
- ／平大輔（地域づくり支援機構）
- ／中川直子（ならどっとFM）
- ／中谷みさこ（地域自治推進ネットワーク奈良）
- ／西村崇（奈良青年海外協力隊協力

協会) / 野口隆 (奈良産業大学) / 野村幸治 (奈良高取土佐街なみ景観保存会) / 浜浦義勲 (地域創造政策研究センター) / 平原正樹 (大谷大学キャリアセンター) / 福田峰子 (つながるプロジェクト) / 堀越正夫 (地域づくり支援機構) / 松川恵一 (奈良のむらづくり協議会) / 松村洋子 (S.G.Gクラブ) / 三本賢治 (奈良県立大学) / 室雅博 (奈良まちづくりセンター) / 保元温 (地域創造政策研究センター) / 山口武 (山口農園) / 山本太治 (三輪そうめん山本) / 山本善徳 (なら喜業家サロン)

※1) 会員としてのご参画は無料です。ぜひ、ご参画いただきたく、3月12日(金)までに、①氏名、②所属・役職、③連絡E-mailアドレスを、E-mail: vision@nit-ass.jp へお送

りください。

※2) 「奈良の将来ビジョンをつくる」ことに興味をお持ちのご友人・知人に転送いただきたく存じます。

※3) 内容についてのお問合せは、実行委員長: 村田武一郎 E-mail: murata@osakawan.or.jp へお願い致します。



ここに自閉症協会入会案内記事を入れてください。

平成22年度定期総会・記念講演会&映画上映会のご案内

平成22年度定期総会

日時 平成22年4月25日(日) 12:00~受付
12:15~13:00 開会挨拶
13:00~16:00 映画上映&記念講演会
16:00~17:00 総会議事

場所 大和郡山市三の丸会館小ホール奈良県大和郡山市南郡山町529-1

TEL (0743-53-5350)

*会場に駐車場はありません。公共交通機関の利用をお願いします。

記念映画上映会&講演会

映画「ぼくはうみがみたくなりました」上映
講演会講師 山下 久仁明氏
ぼくはうみがみたくなりました原作者
NPO 法人はらっぱ しょうがい児のための放課後の遊び場
フリースペースつくしんぼ 理事長

「ぼくはうみがみたくなりました」は自閉症児・大輝(ヒロキ)君の父親である脚本家・山下久仁明氏が「一人でも多くの人たちに自閉症のことを知って欲しい」という想いから2002年に書き下ろした小説です。映画化を企画し、インターネットで制作費のカンパを呼びかけた矢先の2006年3月、山下氏は中学を卒業したばかりの大輝君を事故で亡くされました。その3年後、全国の賛同者1,000人以上からの寄付金をもとに、2009年の春、ついに映画が完成し、全国で上映され、大好評です。映画上映の後、山下氏の映画制作の裏話や、NPO 法人はらっぱの活動の様子など講演していただきます。

問い合わせ TEL & FAX 0743-55-2763 E-mail kawafune@ares.eonet.ne.jp(河村)

出席の有・無と欠席の場合の委任状提出をお願いいたします。(絆同封)

(会員のみ保育があります。定員10名 締め切り4月10日)

保育の申込先 FAX 0744-33-4755 m-ueshima@k2.dion.ne.jp 上島

★映画上映&記念講演会は会員外の方にも参加していただけますので、知り合いの方にお声をかけてください。

平成21年度赤い羽根共同募金助成金事業が完了しました

1月30日土曜日にH21年度赤い羽根共同募金の助成を受け、奈良市北部会館 市民文化ホールで午前中は「ぼくはうみがみたくなりました」の映画上映会、午後は講師に児童精神科医師・ペック研究所主宰 吉田友子氏の「あなたがあなたであるために!その子らしさを生かす子育て～思春期の安定・思春期の飛躍～」

の講演会を開催しました。吉田先生講演会のアンケートにもありますように、お話しを以前よりお聞きしたいと思っていましたので、喜んで聴講させていただきました。思っていた以上にわかりやすく、先生の温かい言葉に癒されましたので、再度吉田先生の講演会を企画してほしいとのコメントもいただいています。「ぼくはうみがみたくなりました」は映画制作が始まった頃から、役員一同上映を楽しみに待っていた

作品で、期待通りの素晴らしい映画でした。自閉症の子どもを持つ親にとって兄弟の事も気がかりなので、主人公の弟を我が子に重ねながら涙が出ましたとの感想もありました。ひとりでも多くの方に観てほしい映画ですので再度4月25日(日)総会時にもう一度上映会を計画しています。参加できなかった方、もう一度観てみたい方は是非ご参加ください。

吉田先生講演会

アンケート

■本日の内容はいかがでしたか?興味深かった点、理解できなかった点があればお書きください。

◎教員

○吉田 Dr の著書は PDD 児と保護者にとってもあたたかくわかりやすかった。本当の支援の視点で書かれていると思っており、是非聴きたいと思って参加しましたがやはり思っていた通りいえそれ以上にすばらしい方でした。最後にあったお言葉のように「人として信じられる」Dr だと思いました。

○うまく行く予定だったものが、うまくいけなくなったことも予定の変更になる。というお話は目からうろこでした。とてもいいお話をありがとうございました。

○問題→提案の順がとても理解しやすかった。

○子供が不安なく過せるように支援の方法を考えていきたいです。

○子育て支援についてたくさんのヒントを頂きました。

○我が子は成人しているので幼い子の対応を参考ににならないかと思っていましたが応用すれば良いとのことで参考になりました。

◎その他

○1人で過ごす技術(能力)の大切さを感じました。感覚遊びのリフレッシュについては、成人でも必要性があります。見つかった時はとても満足です。見つけるまで色々買い、こだわり?と思ってしまうこともあります。

○理論的でとてもわかりやすかったです。

○奈良でももっと多くの方に向けて自閉症の理解を広めていきたいです

◎福祉関係者

○吉田先生の話聞きながら、利用児たちの顔を思い浮かべていました。分かっているつもりでまだまだ分かってあげられていないな。と反省です。どうすればいいか迷った時は今日いただいたレジュメを参考にさせていただきます。

○自閉症支援がしっかり出来ているかどうか、今日先生のお話をお聞きして日々の療育の見直しが必要だと痛感しました。最後に「選択肢を選びとる人」であるという言葉が心に残りました。

○「三つ組」という表現をしっかりと話いただき、従来の特色だけでは不十分な点を補うことができた。

○丁寧で大変良かった。

○例えた話をまじえすぐく分かりやすい話でした。療育している立場から参考になりました。

○発想の転換、こどもに合わせての

ね。

○「三つ組の視点」で子供の行動を評価することの大切さを改めて実感させられました。

○幼稚園における自閉症の支援は多くなっているが、思春期になり気付き子供は本当にしんどい思いをしている(自分の子供が中・高にいますのでクラス40人に1人はつらい思いをしている)なのに幼稚園で支援してもらったにも関わらず多くの方が、小学校は普通級へと言われ、学校や専門家が強く勧めることが出来ず高学年になると、ほかの子より「変わっている」「先生はその子をひいきする」といっていじめとなる。知的に問題がない子ほどとてもつらい思いをする。このようなことを目の当たりにしていても小学校普通級へと親が言うと止められずつらい。

■ 実践で生かすことができそうですか?またそれはどのようなこ

支援など保育を考え直していかなければならないと思いました。又、今支援している事が今後社会に出たらないから・・・ということは私たちが作っていけばいいというのは、本当にそうだなと思いました。

◎ 保護者

○ ASD と ADHD の並存についてこれまでから子供の対応の仕方等で不安を感じたりしていたのですが、今日のお話を聞き、子供の能力障害に応じた支援という視点が大切だと思いました。

○気の合う子供たちが近くにいる確率は低いので出会う確率を高くするようにすることや「機能ごとのおつきあい」という事。

○おもしろく聴けました。日々考えさせられます。

○点字ブロックの話～あきらめずに頑張っていきたいです。息子と毎日楽しく穏やかに生活することが一番

とですか?

◎ 教員

○1人で遊べる時間帯や場所の確保をすることの大切さを実感しました。

○IQに関わりなくPDDに共通していることをとてもわかりやすく具体的にエピソードや子どもお話をまじえて教えていただいたこと。運動会のピストルの音、ひもの話しなど自分の考え方、自分の対応があまり間違っていないのだと思わせていただけうれしくもありました。

◎福祉関係者

○今日のお話全てが日々の療育を振り返るいい機会になりました。もう一度自閉症等知識をしっかり持ち、子どもたちの力が発揮できるような関わりをしていければと思います。

○先生の言葉の使い方、説明の仕方を做ってご家族とお話しをしたいと思っています。子どもの事を理解するこ

とで大部分の問題が解決していけるのでは?と考えています。

○一般的なアドバイスだけでは不十分であることがよくわかった。「いじめられたらイヤって言いなさい。言えなかったらお母さんに言ってね」

○発音に不明瞭な点のある子が多くいる理由も少しわかってきました。

○「失敗をあえて経験する必要なない」という言葉が自分の療育スタイルを振りかえさせられました。

○最後のお話の技術を教えるばかりでは・・・教えられる言葉でした。

○親に対する相談等の話し方。

○個性の特性をしっかりと見極めることの必要性。個々に応じた援助をすることが大切ということも再認識させられました。

◎保護者

○字を練習(駅名)。得意な余暇支援。

○「親も子もイライラしないで楽しい毎日が送れる」成人した息子との生活の中で不安を多く感じているのですが、この言葉で力をもらいました。息子の症状に向き合い、少しでも彼の自己評価を高める事ができるように生きていきたいと思いました。

○「こだわりは24時間サイクルで教える。

○理由に応じた支援。こだわりの形を教えていく(これはいつも悩んでいます)

○できる、できないも親の視点からさせていることが多いように思いました。子どもの発達をよく考え見ることが必要だと再認識しました。もう一度特性の理解を見直します。

○支援～幼児期支援が基本?また初心に戻って支援のあり方を考えてみたいのです。

○後ろ向きではなく良いことを認めて子どもに接したいです。

○三つ組みの特性を生かし、前向きに子どもの性格特性を感じ取って実践していきたいと思います。

○こだわりは長所。強み。目からうろこでした。

○思春期にさしかかり、今までなかったこだわりや問題行動が目立つようになってきました。幼児期だったあのころを私自身が思い出して、もう一度あの時の思いで環境や生活等見直していこうと思います。すごく良い時に先生のお話を聞いて良かったです。

○子供が幼いころ、不安やいら立ちや孤独感・・・苦しい日がありましたが、先生の温かい言葉で本当に癒されました。親の思いを代弁していただいた感じがして・・・救われました。

◎その他

○ADHDと自閉症スペクトラムをしっかりと別としてとらえること。ハッとしました。

○感覚過敏性、ASDの特性に合わせた支援を親と共に考えていきたい。

■今後どのようなテーマの勉強会に参加されたいと思いますか?

◎教員

○今日のお話の「人を巻き込んだこだわり行動」について聞けるといいなと思いました。(著書にもありますが)

◎福祉関係者

○保護者の立場で求める療育

○幅広く現場の先生からのお話を聞きたいです。

◎保護者

○ 思春期の性

○STT 社会性プログラム(筑波大学)

○吉田先生のお話をもっと聞きたい

としました。

○また定期的に吉田先生を呼んでいただきたいです。

◎その他

○行動分析方法など。



各位

平成22年1月 日

奈良県重症心身障害児（者）を守る会

会長 品川清美

平成21年度強度行動障害について理解を深める研修会ご案内

寒さ厳しい折、皆様には益々ご清栄のことと拝察申し上げます。日ごろは当会の活動に深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の「強度行動障害について理解を深める会」研修会を下記の内容で実施致しますので、多数の皆さんのご参加をお願い致します。

研修会講演

テーマ：「動く重症児と発達障害について」

講師：バルツァ・ゴードル 顧問 家森百合子 氏

日時：平成22年3月3日（水曜日）

受付 13:00～18:30

講演 13:30～15:30

場所：奈良市総合福祉センター3階集会室

1. 当会研修会の目的

日々障害児（者）の生活や活動を支援されている人たちに対して、その実践に直轄した内容について研修する機会を提供し、自己評価できる実践力を高めて頂くことにより、奈良県における強度行動障害の問題に迫り、その処遇の質的な改善を目指す。

2. 定員：100名

3. 参加料：無料

4・申込締め切り平成22年2月24日（水曜日）

5・申込先：奈良県重症心身障害児（者）を守る会 動く重症児部会事務局

〒630-0221 生駒市さつき台2丁目450-90 山村義和

TEL・FAX 0743-76-7832

平成22年3月3日（水曜日）研修参加申込書

氏名	住所	電話番号	所属



平成21年度 赤い羽根共同募金助成金事業

特定非営利法人奈良県自閉症協会 自閉症の理解と支援の為のつどい

自閉症理解講座

あなたが あなたで あるために！

その子らしさを 生かす 子育て

～思春期の安定・思春期の飛躍～

講師 吉田 友子 医師

(児童精神科医師・ペック研究所主宰)

日時 平成22年1月30日(土)

13:00～16:30(12:30受付)

場所 奈良市北部会館 市民文化ホール

奈良市右京一丁目1番地の4 奈良市北部会館3階 TEL 0742-71-5747

近鉄京都線高の原駅下車、南へ徒歩約5分 <http://www.hokubu-hall.city.nara.nara.jp/access.html>

参加費 1,000円 定員 200人

申し込み不要 当日受付しますので直接会場にお越し下さい

お問い合わせ 光野 節美 nahi-kon@m3.kcn.ne.jp 河村 舟二(事務局) 0743-55-2763

ペック研究所とは、Institute of PsychoEducation for Children のことで、子どものための心理学教育研究所の略です。自閉症アスペルガー症候群の子どもたちが自分自身について学んでいくための道しるべを、子どもたちと一緒にみつけていきたいと願っています。 <http://www.i-pec.jp/index.html>

吉田 友子(よしだ ゆうこ) 東京都出身 児童精神科医師

1985年、東京慈恵会医科大学卒業。聖マリアンナ医科大学病院精神療法センター・東海大学病院児童グループ・横浜市リハビリテーションセンター児童精神科勤務を経て、横浜市北部地域療育センター設立(1994年1月)から6年間児童精神科部門を担当。よこはま発達クリニックの設立準備に携わり2000年2月より勤務。現在も診察はよこはま発達クリニックでのみ行っている。1994年より横浜市内の福祉保健センターで1歳6ヵ月児療育相談を担当。

著書 ・高機能自閉症 アスペルガー症候群

「その子らしさ」を生かす子育て

中央法規出版 改訂版 2009/6

・あなたがあなたであるために

自分らしく生きるためのアスペルガー症候群ガイド

吉田友子著 ローナ・ウィング監修 中央法規出版 2005/6



イラスト伊藤じゅんいち

平成21年度独立行政法人福祉医療機構の助成による「自閉症児者の療育と就労資源開拓事業」

発達・療育相談の実施のお知らせ (無料)

自閉症スペクトラム児の発達・療育相談会を電話・FAX・メールにて 個人の発達相談をお受けいたします。相談員は、ペアレントメンターが同じ悩みを持つ親の立場で相談を受けます。必要な場合は 発達相談員、障害児学級教員、養護学校教員などのボランティアによる ご相談もお受けいたします。

問い合わせ・申し込みは FAX 又は メールにて ご連絡下さい。

TEL/FAX 0742-36-0205 (TELの場合は留守電に連絡先を)

E-mail asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

奈良県自閉症協会HP <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

☆ FAX と メールによる簡単な相談も 随時受け付けいたします。

1週間以内に 返信いたします。 メール希望 () FAX希望 ()

相談者氏名		本人との続柄
又は 参加者		
住所	〒	電話 FAX
奈良県		
生年月日	年 月 日 () 才	
ふりがな 名前		男・女
学校又は職業	()	
	保育所・通園施設・幼稚園・小・中学校・高等部・就職・作業所	
生活の場	自宅・施設	自閉症協会 1. 会員 2. 会員でない (○をつけて下さい)
今回相談なされたい内容 (事例提供・相談者のみ)		

*お寄せ頂いた情報は相談会のご連絡や 相談以外には使用いたしませんのでどうかご安心願います。

*上記の番号の電話を 同じ自閉症児者を育てている保護者たちで お電話をお待ちしております。最初はお話を聞かせてもらうだけで 精一杯ですが専門家の方や いつもお世話をかけている支援者さんには お伺いしにく事、今更こんなことを聞けない事など、仲間として気軽にお電話してみてください。

水曜日以外の11:00~14:00の間が 比較的、お電話を取りやすいです。

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒536-0023

大阪市城東区東中浜3-5-16タイガーマンション1F

編集人：河村 舟二

定 価：100円